

共鳴する マイノリティ

〈障害〉研究をめぐり、二人の研究者が、〈当事者〉として対象者に向き合う〈痛み〉とどう折り合いをつけながら、社会的に周縁化された人々の生の営みに向き合ってきたのかを語り、マイノリティの排除を乗り越える〈共生の文化〉の形成や〈インクルーシブ社会〉の実現について検討します。

国際関係学部棟 3314 教室 (オンライン Zoom配信あり) *学内者限定

オンライン参加の方は、参加申し込みが必要です。以下の申し込みフォームよりお申込みください。

第一弾

11/24(金) 17:00-19:00

排除を乗り越える 文化の探求

講演者 二羽 泰子 (国際関係学部・講師/CEGLOS研究員)

司会・対談者 奈倉 京子 (国際関係学部・教授/CEGLOS研究員)

教育における排除はどのように進行しているのだろうか。そのような排除はどうすれば乗り越えられるのだろうか。まず、障害者個別の問題だと考えられてきた教育における排除が、他のマイノリティを巻き込み拡大し続けている現状について分析した拙稿を紹介します。そのうえで、マイノリティをめぐる二つの社会運動が交差して生まれた、排除に抗する新たな文化について書いた別の拙稿から、マイノリティの排除を乗り越える文化の可能性について考えます。



スケジュール(第一弾・第二弾共通)

17:00 ~ 17:05 司会

17:05 ~ 17:50 講演

17:50 ~ 19:00 対談・フロアからの質問



第二弾

12/15(金) 17:00-19:00

中国の知的障害者とその家族 —「新しい社会性」のエスノグラフィー

(奈倉京子著、東方書店、2023年2月刊行)

講演者 奈倉 京子 (国際関係学部・教授/CEGLOS研究員)

司会・対談者 二羽 泰子 (国際関係学部・講師/CEGLOS研究員)

2000年代以降、中国は、中国共産党の管理と指示に従って行動する必要があり、かつ個人化のもとで「新しい社会性」(新たな個人とその結びつきのありかた)が生まれている(ポスト社会主義的状況)にあります。中国における障害者とその家族、並びに障害者を支援する民間組織の考察を通して、〈共生の文化〉形成の可能性について考えます。更に、第一弾企画と対話し、日本と中国は西側諸国の「普遍的価値観」を受け入れつつ、両国ともに国内では依然としてマイノリティの排除と差別がおこなわれている問題とその原因について議論します。



第1弾申込▼

<https://forms.gle/cYUWQd9ryjwCnZzu7>



第2弾申込▼

<https://forms.gle/xeUW8sg7W635Ma1r8>

